

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2022 成果報告レポート

助成番号 22-2-2

プロジェクト名 小児病棟でのクリニックラウンオンラインイベントの実施
団体名 認定特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会
所在地 大阪府
助成額 180万円
設立年 2005年
URL <https://www.clinicdowns.jp/>



（団体について）

当協会は、「すべてのこどもにこども時間を」を合言葉に、クリニックラウン(臨床道化師)を小児病棟に派遣し、入院しているこどもたちが、こども本来の生きる力を取り戻し、笑顔になれる環境をつくるために2005年から活動しています。

（助成による活動と成果）

コロナ禍、小児病棟ではCOVID-19の感染予防の為、家族との面会制限、プレイルームの使用制限・イベントの中止など、こども同士の交流や遊びの機会が制限されています。そこで、昨年度は、病棟保育士などの病院スタッフと協力し、小児病棟でのオンラインイベントのプログラム開発を実施しました。

今年度は、プログラム開発した「夏祭り」「クリスマス」「宝探し」などのオンラインイベントプログラムを計17回実施し、のべ203人のこどもたちにこども時間を届けることができました。新規実施病院のスタッフから、こどもたちが参加しやすい工夫がされていて、スタッフの負担も少なく達成感が得られる点が高く評価されました。これまでクリニックラウンWeb訪問や実際の訪問がなかった病院で実施することができ、定期的なWeb訪問にもつながっています。また、当初予定していなかった、コロナ病棟や院内学級での実施や自宅療養中のこどもたちとも関わることができ、実際の訪問でこのプログラムを実施するなど、様々な可能性に挑戦することができました。

また、工作ボランティアやこども時間案内人(広報ボランティア)を実施することで、ボランティアの参加の機会・活躍の機会をつくることができ、長期療養中のこどもたちの理解を深めることができました。

（残された課題、新たな課題）

課題は、必要なところに必要な情報が届いていないため、広報の工夫が必要だという点です。学会の団体紹介ブースでは、オンラインプログラムやこども時間案内人に関心があり、小児病棟の療養環境やこどもたちのために何かしたいというスタッフが多くいると感じました。しかし、病気のこどもたちを支えるためのプログラムを持つ支援団体のことを知らない人も多くおり、病棟スタッフや家族が活用しやすく、情報をまとめて伝える工夫が必要だと思います。

今回、デモンストレーション&体験会では導入にむけての情報を届けることを目的に実施したため、病院のスタッフにより分かりやすく伝わり、実際のオンラインプログラムの実施につながりました。団体を紹介するだけでなく病棟スタッフや家族がどう活用できるのかという視点で情報発信してい

くことの大切さを感じています。外部資源を実際に活用している病院スタッフが活用事例を発表したり、病棟スタッフや当事者のための活用方法などを伝えたりする機会や情報交換できる機会をつくることが今後必要であり、いろいろな団体と協力し一緒に情報発信していく機会を作ることが大切だと思いました。

クリニックラウン web 訪問の2022年度実績は、20病院で年間186回訪問を実施しています（オンラインプログラムを含む）。2020年度実績の10病院からは増加していますが、まだまだ実施する病院は少ない状況です。このプログラムをきっかけに、長期療養中のこどもたちを応援する外部団体の支援を受け入れてもらう機会をつくってもらうことが課題です。

今後は、開発したプログラムをより多くの病院で実践していけるような仕組みをつくり、多くの方が長期療養中のこどもたちを応援していることを、伝えていくことが大切だと考えています。また、オンラインプログラムを実施した病院スタッフのアンケートから中高生のこどもたち同士の交流の機会が減少しており、入院中の中高生が主体的に交流できるようなプログラムの開発実施も必要性を感じています。

（活動の背景・社会的課題）（団体からのメッセージ）

COVID-19 の感染症法の分類が変更になり、世の中では、コロナ対策は緩和の傾向があります。しかし、ほとんどの小児病棟では面会制限は少し緩和されましたが、外部のボランティアの受け入れについては慎重な対応をしており、こどもたちが「こども時間」を取り戻すにはまだまだ困難な状況が続いています。今、現在も変わらず行動制限を受けている長期療養中のこどもたちに、オンラインイベントを通じて、遊びの機会を提供し、こどもたちの心が動く瞬間や感情表出や表現の機会をつくり、成長や発達を支えていきたいと考えています。オンラインをつかった Web 訪問は、遠方の病院へ気軽に訪問することができたり、移植前のこどもたちにも感染のリスクなく遊ぶことができます。また、「今、この子に会わせたい」という緊急対応にも Web だからこそ応えることができます。

実際のクリニックラウン訪問やオンラインをつかったクリニックラウン Web 訪問やオンラインプログラムなど選択肢を増やしていくことが大切だと考えています。できないとあきらめるのではなく、できることは何かを考え、工夫をしていくことの大切さをコロナのおかげで再確認することができました。そして、リアルでもオンラインでも、クリニックラウンならではのユーモアのあるコミュニケーションを展開することで、こどもは楽しさや喜びを感じることができ、同時にこどもに関わる人たちも、それぞれの立場を越えて本来のその人らしさが引き出され、豊かなコミュニケーションが生まれ、関係性を育んでいきます。これからも人と関わることの楽しさや喜びをこどもや家族や病院スタッフと一緒に感じてもらい、みなさんと協力し、こどもたちの心を育んでいきたいと思えます。このプログラムをご支援いただき本当にありがとうございました。

以上